

No.158

2008.
10.31

岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内
岐阜県博物館協会
TEL 0575-28-3111

楽しい水族館づくり

岐阜県世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ 館長 堀 由紀子



関心が極めて高くなってきております。

生き物やその不思議な生理、生態が公開され、その水辺の生き物たちを見て、触れて楽しもうという層が広がり、国内外を問わず「水族館」は新設、増設傾向になっております。現在、日本では(社)日本動物園水族館協会に加盟している水族館は70館であり、全国に点在しております。さらに類似施設を加えますと130数館となり、何と日本は世界最多の水族館王国であるわけです。それでは世界にはどれくらいあるのかというと、4年に1度、開かれます世界水族館会議(本年10月中旬上海で開催)の調査では550余と言われ、特に中国ではこの10年急速に、80園館も新設されました。いずれにせよ経済発展や水槽設備等、科学技術の進展と共に水族館は拡大傾向になって来たわけです。

さて、水族館の役割、使命は博物館法に基づき、リクリエーション、教育、研究の生涯学習の場であると同時に自然保護の場である事が国際的にも遵守されております。平成16年7月に各務原市にオープンしました当館では、その使命役割に対し、それをより鮮明に打ち出す事に5つの基本コンセプトを創出致しました。山紫水明の岐阜県の本曾三川、長良川と中国の揚子江川に、タイのメコン川、

アフリカのコンゴ川とタンガニーカ湖、南米のアマゾン川の水生生物の多様な自然環境を再現したいと考えました。

一つ目はフィールドミュージアム 展示水槽だけではなく出来るだけ森や川を体感し、生命の尊さを知り学び、科学する心を育てて頂きたい。二つ目は生物多様性への挑戦 増加している絶滅危惧種への保全活動であり、メダカをはじめ、ウシモツゴを守る会、淡水保全研究会等と全国的に展開致しております。三つ目は地域性と国際性 地域との連携は県民、市民と共に環境教育や動物の保全と交流が肝要であり、国際会議の参画や展示生物の情報等、アジア諸国との人的交流を定期的に行っております。四つ目は環境教育 学校との連携や産官学民との共同調査を行い、幅広い広報活動であらゆる層に提供できるように心がけております。五つ目はアミューズメントの場 楽しく集い、憩い、エンターテイメントとエデュケーションであるエデュテイメント性を追求し、生命の不思議とその多様性を学び、生物進化、異次元の体験を驚き味わう感動体験の場にしたいと願っております。

それには、特別展や企画展、魅力ある催事の展開が求められますが、2年目に思い切ってアシカショーを導入したり、本年ねずみ年にちなみ、この仲間でもあるカピバラを展示する等、魚類ばかりでなく哺乳動物も付加し、ふれあいコミュニケーションの強化を図っております。職員たちは企画展示、解説も全員参加で知恵を出し、明るく朗らかな職場であり施設である事を心がけており、頼もしい限りです。

平成20年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会

日 時：平成20年7月25日（金）
場 所：名古屋市徳川美術館
参加県：山梨、静岡、愛知、岐阜（94名）

平成20年度東海地区博物館連絡協議会、日本博物館協会東海支部総会は、名古屋市の徳川美術館を会場に行われた。協議会当日は「徳川家康と戦国のたたかい」の企画展が開催されており、多くの参観者が熱心に見学されていた。この企画展は家康の生涯を通じて繰り広げられた合戦の様子を徳川美術館に伝えられた豊富な史料によって紹介されており、どれも見応えのあるものであった。特に夏休みとあってか、家族連れの様子が多くあちこちでメモをとる児童生徒も見られた。

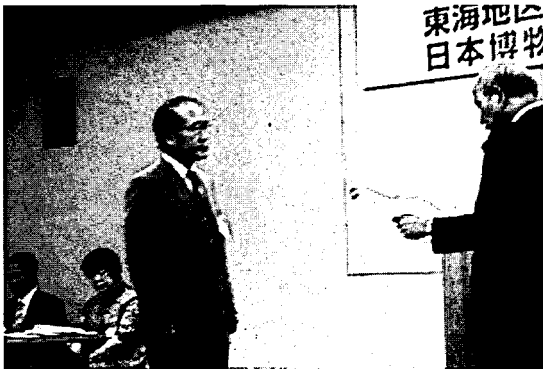
<総会>

始めに東海地区博物館連絡協議会会長 岡田大氏より「昭和38年に24館の加盟で結成されたこの協議会が現在では472館にまで発展したこと、博物館運営は厳しい環境にあるが、生涯教育へ寄与するために一層の努力を続けたい。」とのあいさつがあった。続いて徳川美術館館長 徳川義崇氏からも心のこもった温かいごあいさつをいただいた。

その後、来賓の日本博物館協会事務局長 新妻洋子氏、愛知県教育委員会教育長 今井秀明氏から祝辞が述べられた。

<表彰>

東海地区博物館連絡協議会の表彰規定により岐阜県美術館長 古川秀昭氏が受賞。県立美術館の立ち上げから館長として活躍され現在に至るまでの長年の功績によるものであり、大きな拍手が送られた。



<議事>

平成20年度理事及び幹事の選任、平成19年度事業報告及び決算報告、平成20年度の事業計画及び予算案といずれも承認され、21年度の開催県は山梨県と決定。

続いて日本博物館協会の主要事業について、新妻事務局長さんより報告が行われた。そのうち主なものをあげる。

①協会創立80周年記念事業の実施。功労者の表彰、記念論文の編集、実態調査等。

②「国際博物館の日 5月18日」記念事業の実施。この日と連動して各支部も積極的に活動を展開してほしい。

③全国博物館大会の開催。今年度は11月20～21日島根県民会館。テーマ(仮)「地域に生きる魅力ある博物館への新たな出発」。ぜひ参加してほしい。

<記念講演会> 講師：安田文吉教授
(南山大学人文学部日本文化学科)



「尾張名古屋の芸能文化～殿様から町人まで～」という演題で、とてもわかりやすく講演していただいた。名古屋の芸能文化は宗春の時代までは藩主主導で発展したが、それ以後は町人層によって受け継がれていったことがよくわかった。尾張の地域文化について改めて考えるよい機会になった。

(機関紙委員 海津市歴史民俗資料館 加藤和保)

第115回岐阜県博物館協会公開講座報告

演 題：金生山化石館自然講座
期 日：平成20年8月2日
会 場：大垣市赤坂総合センター
参加者：県内外から24組の親子

「金生山化石館の公開講座」は小学4年生以上と一般市民を対象にそれぞれ前期（7月20日～8月2日）、後期（10月12日～10月26日）各三回開催される。

前期講座の最終回8月2日（土）、「化石を磨いて観察しよう」の会には、24組の親子が参加。橋本館長さんの話によれば、「一宮市や名古屋市からの参加もあり、親子で楽しく熱心に取り組まれている。」とのこと。

研修室では指導者の説明を真剣な眼差しで聞き、親子で活動する姿がほほえましかった。サンドペーパーで一生懸命に石を磨いていた男子児童は、「去年も参加したがとても楽しかったので、今年も来ました。化石についてももっともっと勉強したい。」と笑顔で話してくれた。また小学生の姉妹と一緒に参加されていた親さんは、「夏休みに親子でこんな体験ができるのはとても有意義です。後期の講座にも参加したいと思います。」と話された。この講座に参加した親子の生き生きとした活動を目の当たりにして、改めてこの自然講座のよさを痛感した。博物館のありかたが問われている今、このように地域にある素材を生かして、地域にねぎした活動を地道に広げていくことに力を注ぎたいものである。



（機関紙委員 海津市歴史民俗資料館 加藤和保）

第116回岐阜県博物館協会公開講座報告 「小本章ワークショップ-カメラ・アイ 不思議な世界」

期 日：平成20年8月9日（土）
会 場：岐阜現代美術館
講 師：小本章さん、永原ゆりさん

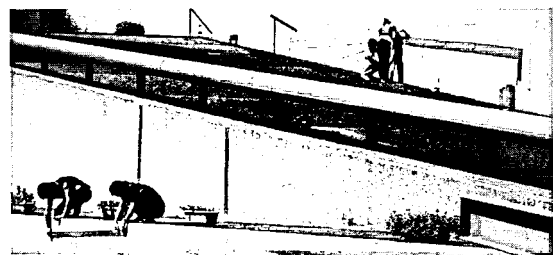
関市の岐阜現代美術館で開催された展覧会に際して、ワークショップが開かれました。小本章さんは、自然とモノの融合するどこか不思議な世界をカメラで撮影した作品を制作されています。

ワークショップではまず、室内で小本章さんの作品作りの方法について実際に作業をしながらお話をうかがいました。参加者はグループに分かれ、床を映したモニターの上にカエルの絵を描き、その図に沿って床に色紙を置いていきます。画面を見て初めて色紙が形となって現れる、そのギャップを楽しむと同時にモニター越しに見る映像が実際の姿とは限らないことを実感しました。



小本章さんと室内でのワークショップ

午後からの屋外の建物や構造物を利用したオブジェの制作は、カメラを一点に据え、そこからのぞいたときにだけ見える形をテープで描くもので、炎天下、美術専攻の学生グループや家族連れが思い思いに作品を作っていました。参加者からは、目とカメラの視点の違いに戸惑いながらも、作品自体の意外性や大勢での共同作業を楽しむ声が聞かれ、子どもから大人まで、全身で現代美術の楽しみを感じることのできる、とても魅力的なワークショップとなりました。



屋外でのオブジェの制作

（機関紙委員 岐阜市歴史博物館 三山らさ）

ガラス美術館 駒

〒509-4236

岐阜県飛騨市古川町三之町 1-17

TEL/FAX : 0577-73-6550

白壁土蔵や色とりどりの鯉が泳ぐ瀬戸川で知られる飛騨市古川町の中心部にガラス美術館駒があります。骨董店を営む駒侑記扶氏が40年にわたり収集した日本のガラス製品約800点を展示しています。



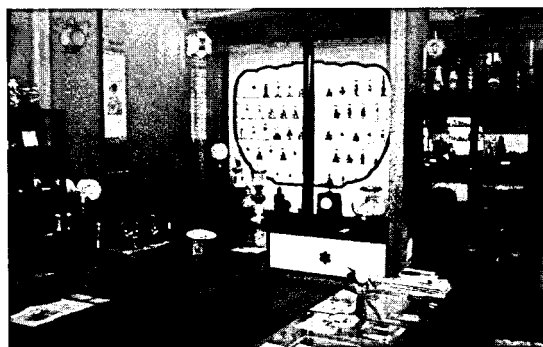
ご主人の駒氏は古川に100年続く骨董店の3代目。若くして京都に骨董の修行に出たとき、ランプやコップ、かき氷の器といったガラス製品のもつ「癒し」に魅せられ、給料をはたいてこつこつと買い集めたのが収集の始まりでした。その後、郷里に帰って骨董店を継ぎましたが、美術館を開くという考えはなかったそうです。

現在、美術館となっている場所には、当初、プライベートな部屋を作る予定でしたが、周囲の人たちに勧められて、完成の4ヶ月前に美術館とすることにし、平成5年4月に開館しました。



情緒ある町並みに面した建物は蔵造りの外観で、駒氏自身が周囲との調和を意識してデザインしました。表看板の「駒」の文字は、写真家の土門拳さんが来訪した際に書かれたものだそうです。格子状のスタンドグラスとなっているドアを開けて中にはいると、8坪ほどの広さの部屋に、幕末から昭和初期にかけて制作されたガラス製品が所狭しと並べられています。

もともと居室として使われるはずであったため、床は漆塗りの板敷き、樺の一枚板で作られた床の間があり、明かり取りの窓を改造した展示ケースに豆ランプが並べられています。木製戸棚の中や上には、様々な色、形のコップや器などの実用品が多く展示されているほか、ガラスの歴史を伝えるものとして、紀元前後の中近東のガラスや漢、戦国時代の中国のガラス、深緑色の鈍い光を放ち、様々な効能もあるといわれるウランガラスといった珍しい品も展示されています。



駒氏によると、明治、大正期のガラス製品を中心に展示する施設は国内でも少なく、ガラスを趣味としている人を中心に大変満足され、何度も来館する人もいます。また、展示室のスペースをもっと広くしたいという思いもありますが、展示品が高い密度で並んでいるので「見比べ」ができてよいという人もいます。

【交通】JR高山本線飛騨古川駅から徒歩7分
【開館時間】午前10時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

【休館日】不定休

12月～2月は土日祝日のみ開館

【入館料】大人300円 小人150円

(機関紙委員 岐阜県ミュージアムひだ 藤枝和人)

館・園紹介 No.143

いぬやまやきとつくりさかすきかん

犬山焼徳利盃館

〒509-0247 可児市塩河 3431
TEL/FAX: 0574-65-6416



左：雲錦手徳利 右：赤絵花鳥文徳利

普段の日常生活で何気なく使っている徳利と盃、実はとても奥の深い世界です。可児市南部にあるこの資料館では、犬山焼の徳利と盃の個性的なコレクションをもとに平成6年4月に開館し、その豊かなデザインと歴史をテーマにユニークな活動をしています。

尾張犬山焼は、現在の犬山市今井で江戸時代の中期・宝暦年間に始まったといわれています。その後、天保年間(1830年代)に犬山城主成瀬氏が陶工や陶画工を名古屋から招くなどして保護奨励したこともあって江戸時代末にますます盛んになりました。江戸時代の犬山焼は「赤絵」「雲錦手」(うんきんで)「染付け」「銹釉」(さびゆう)の4タイプを基本に生産されました。特に「雲錦手」は、桜と紅葉を巧みに配した鮮やかな色絵で、独自に発展した犬山焼の特徴的意匠です。その風雅なデザインとさまざまなバリエーションは私たちの目を楽ませてください。明治時代のはじめ、いろいろな博覧会に出品するなど技術革新とともに生産量も増加します。それまでのデザインのほかに明治になると「青首」

「達磨」「竹林七賢人」「松に雪」などユニークな絵柄が生まれ、また器の形状も変化に富み、その組み合わせから多様な作品がうまれていきます。現在も犬山市内に4つの窯があり生産が続けられています。重厚で親しみやすい絵付けを特徴とし鮮やかな美を求めた長い伝統を今に引き継いでいます。

館長の土田晃司さんは元教員、前可児市文化財保護審議会委員で、歴史や文化財に極めて造詣がふかく、昭和40年代後半から作品の収集を始めました。約35年の間に集められた徳利は1,800本以上、盃は700個以上とのこと。コレクションは自宅車庫の2階を改装した展示室にまさに所狭しと陳列されています。現在も月に6日ほどは地道に調査に歩き、新しいデザインのものを見れば入手を続けています。



展示室の内部

全国的にも珍しいこの膨大なコレクションは多くの人々に注目され、岐阜県博物館のマイミュージアムギャラリーのほか、可児市内外のいろいろな施設の展覧会に何度も出品されています。

「尾張名古屋のモノづくりの精神、そしてそれに傾注した名もなき職人たちの魂を多くの人に理解してもらいたい」。情熱的に語る土田館長の表情が印象的です。

【休館日・開館時間など】

年中無休 9:00～21:00 (要電話予約)

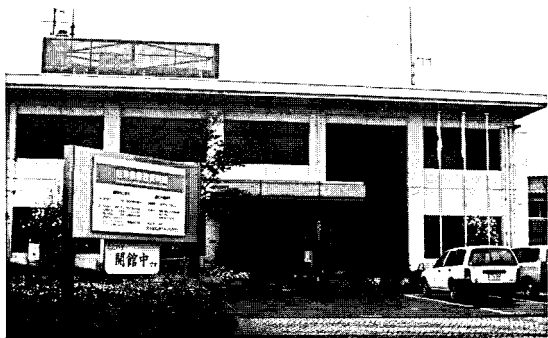
【入館料】 無料

(機関紙委員 美濃加茂市民ミュージアム 可児光生)

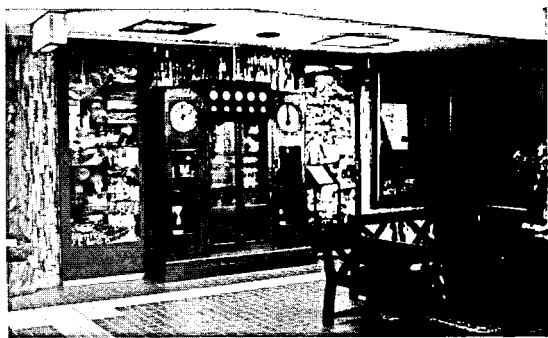
館・園紹介 No.144

岐阜県県政資料館

〒501-2105 山県市高富 1276 番地 2
TEL : 0581-22-3993
FAX : 0581-27-3858
<http://www.g-kyoubun.or.jp/kenseisiryokan/>

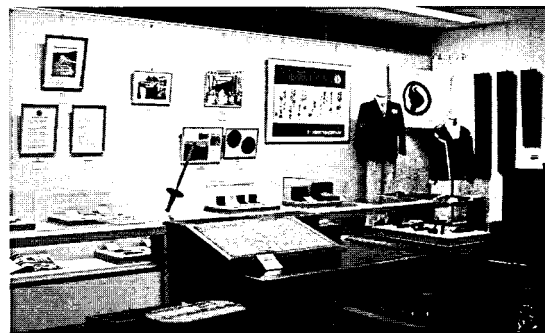


岐阜県県政資料館の建物は、かつては山県県事務局として建てられ運営されていました。それが、現在の資料館として新しいスタートを踏み出したのは平成 13 年 11 月のことです。明治以降の県政における成果と財産を、広く県民のみなさまにお伝えすることを目的として、開館の運びとなりました。県政にまつわるイベントや国際交流などで得られた貴重な資料が、およそ 1900 点収集・展示されています。



館内に入ると、まず目に飛び込んでくるのは、大きな時計です。旧県庁舎で、昭和 26 年から使用され、今なお時を刻んでいます。昭和 54 年から現在までの資料が展示されている常設展示室 1 には、昭和 63 年開催の未来博で使用されたポスターやちらし、スタッフジャンパーや、3 年前の花フェスタ 2005 ぎふに関する資料などが展示されています。驚いたことに、そのほとんどを手にと

って見るすることができます。展示品を見ていると、懐かしく、当時の自分もそこに展示されているかのように思い浮かんできます。



2 階へ上がり常設展示室 2 へ進むと、明治から昭和 53 年までの資料が並べられています。昭和 40 年開催の国民体育大会関連資料や、昭和 51 年 9 月 12 日に起こった豪雨による災害の様子を撮影した写真などがありました。羽島郡役所で使われていた机や椅子、印鑑などもあり、岐阜県の歴史を短い時間でさかのぼり見るすることができます。

常設展示室 2 のとなりには、地域のみなさまに生涯学習の場としても活用していただくことのできる企画展示室があります。

館内を見学し、再びエントランスに戻ると、先ほどの大きな時計を再び見るすることができます。来館してすぐに見たときと、館内を見学した後とでは、その時計は少し違って見えました。県政資料館に展示されている資料は、県政に関わる人々が企画し、運営してきた事柄の足跡ともいえます。ひとつのイベントを運営するため、たくさんの人の労力と時間を費やしたことでしょう。その繰り返しをこの大きな時計が物語っているように感じられました。

【交通】岐阜バスで JR 岐阜駅・名鉄岐阜駅より約 35 分 高富線・岐北線・板取線で「高富小学校前」下車 徒歩 5 分

【開館時間】午前 10 時～午後 4 時

【休館日】毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日休館）、祝日、12 月 29 日～1 月 3 日

【入館料】無料

（機関紙委員 岐阜県世界淡水魚園水族館 堀江真子）